



写真_ (右ページ) 収穫作業をするホップ農家 (左ページ) 収穫作業が終わり、互いの労をねぎらった慰労会

また来年も、 この光景を——。

取材を終えて——

■ホップに魅せられた夏

「今年の収穫作業もご苦労さんでした！ かんぱーい！」。9月1日、ホップの収穫作業が全て終わり加工センターで行われた慰労会。通称・落成式と呼ばれる行事は、ホップ生産者や作業を手伝った人、関係者40人が参加しました。今年の収穫は8月から9月にかけての1カ月。ホップの出来具合、苦労したことなどを食べて、飲んで語り合う場面がありました。

収穫作業に密着取材した8月。猛暑や雨不足の気象と闘うホップ農家をカメラで撮影しました。額には大粒の汗——。ホップの作業がどれだけ大変か知りました。加工センターも乾燥させるためボイラー稼働。「どこに行っても暑い」。そう思わず言ってしまうほどでした。

季節は変わり、遠野の寒さが本格的になってくる頃。「一番搾りとれたてホップ生ビール」が発売されます。約2カ月、キリンビールが真心を込めて醸造したビール。今年は11月7日(火)から飲食店やスーパーに並び、遠野産が全国へと届きます。

特集では、ホップ生産者、醸造所、飲食店、まちづくりに取り組む会社などを取材。誰もが「遠野のために」という情熱を持ち活動していました。

市内のホップ生産は減少傾向かもしれませんが。でも、課題解決への取り組み、ホップを支える仲間、遠野を愛してくれるファンがいます。「ビールの里」構想の総合プロデューサーを担当する株式会社 Brew Good の田村淳一代表は、「構想は少しずつ形になり始めています。簡単な挑戦ではないが、たくさんの仲間がいればきっと成し遂げられる。これからも遠野のホップを守り、未来につなげることに全力を注ぎたい」と話します。

ホップに魅せられた今夏。また来年も、この光景がきつと見られる。それは、「おいしい」という喜びをつなぐ一杯をこれから先も作り続けていくために——。

特集 終わり

